

2024 年度 自己評価書

法人名	学校法人 藤天使学園
学校名	草加藤幼稚園

(教育方針)

「ひとりひとりの 咲くべき花を 咲かせよう

～ うつくしく やさしく しなやかに ～」

1 本年度の重点目標

- キリスト教精神を基調とし、モンテッソーリ教育法とその精神を尊重し、保護者、児童、教職員がお互いを尊敬しあい、より一層幅広い人間関係を培い、キリスト教に根差した幼児教育の実現に努力します。
- 本園の教職員は、園児一人ひとりの気持ちや心を大切にするなどの教育方針や質素儉約に努め子どもたちへの対応はおおらかに、また、工夫するなどの経営方針をよく理解しており、こうした姿を維持していきたいと考えています。

(具体的な目標や計画)

それぞれの評価項目に沿って自己評価の実施・改善方策を行う事により、教職員の意識や意欲を持続させ、更に一層の資質の向上を図るため、様々な機会を利用して自己研鑽が図られる事を重点目標とする。

2 評価方法

評価方法は、目的達成状況などに応じ 7 段階とする

評価方法	A	十分達成されている。
	A-	概ね達成されたが、工夫や改善する必要がある。
	B+	若干上回って達成されている。
	B	達成されている。
	B-	概ね達成されているが、工夫や改善する必要がある。
	C	取り組まれているが、成果が十分でない。
	D	取り組みが不十分である。

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	実施状況と改善方策
教育課程・指導	1 建学の精神であるキリスト教や教育目標・方針について	A	・建学の精神に基づいた教育目標などについては、教職員同士の話し合いを通し、子どもの成

	て、教職員と定期的な話し合いなどを通じて理解を深めている。 2 幼稚園教育要領を理解し、園児の特性に応じ、又、主体的な活動を尊重するとともに遊びを通して総合的な指導を行うなど、発達状況に即した指導を行っている。 3 年間の行事予定や指導計画などは、教職員と協力し、工夫を凝らし策定している。		長を実感し、共に喜びあうことができた。 ・園児の教育にあたっては、毎日の祈りや福祉活動(カリタリスジャパン;赤い羽根募金;世界子どもの日)等に参加することにより平和を願う心が育まれるよう努めている。 ・特に、「モンテッソーリ教育法」に基づき、異年齢混合の縦割りクラスのもと、園児一人ひとりの知的好奇心が自発的に現れる環境に配慮している。 ・また、教材を活用して自らの活動を自由に個別活動するよう努めており、教員も経験を積み重ねる事によって、その効果が表れてきていると実感する事ができる。 ・今後も教員の資質の向上を図り、更に教育内容の充実のため工夫を重ね取り組んでいきたいと考えている。
保健管理	1 学校保健計画を作成し、家庭や保健・医療機関と連携のうえ実施している。 2 日常の健康観察や疾病予防の取組みのほか、健康診断を定期的に行っている。	A	・保護者や医療機関と連絡を取りながら保健計画を作成し、健康診断などを実施した。 ・園舎内外の環境整備・清掃・整理整頓等が行きとどいている点については、全ての訪問者から驚かれている。 ・本年度もコロナウイルス対策を継続しながらマスク着用や消毒の励行と、園児の健康・安全を確保している。 ・コロナウイルスに関しては、本年度は感染者も少なく平常の保育活動が可能であった。教職員一人ひとりの予防対策が功を奏している。 ・同時に、園児、教職員とも風邪やインフルエンザなどの予防のため手洗いやうがいを励行し、大型空気清浄機の適切な管理、フィルターの交換など拡散防止に継続的に努めている。 ・今後も保護者や医療機関などと連携し、園児の健康管理と疾病予防対策に配慮していきたいと考えている。
安全管理	1 安全計画や防災計画を策	A	・危機に対する対応については、最優先課題と

	定し、定期的に避難訓練などを実施し、安全対応能力の向上を図っている。 2 危機管理マニュアルを作成し、教職員が消防機器の安全点検や避難路確保などを行っている。		考えており、万一の事態に備え、定期的な避難訓練のほか教職員による避難路の確保や消火器の点検と配置場所の確認など安全確保に努めている。外部からの侵入に関しては、警備会社と連携をとっている。 ・今後も事故や事件に巻き込まれないよう、教職員の危機管理に対する意識を一層高め、また、保護者の協力を得ながらその防止に努めていく。 ・昨年度、新たに市からの要請で策定した「非常災害対策計画」を見直していく。 ・検査で指導された安全点検項目の具体化を更に進める。 ・園児向けの交通安全教室を市と草加警察署の協力を得て実施している。
特別支援教育	家庭と連携を図るとともに園内支援体制の下、園児ごとの指導計画を作成している。	A	・園児一人ひとり健康状態などをしっかり把握し、保護者の理解や教職員全員による共通認識のもと指導計画に沿って教育活動を実施している。 ・保護者や関係者(特別支援サポーター・埼玉県・草加市等から派遣される専門家、療育施設)と連携し、園児一人ひとりの個性や自立心などを尊重し、更に保護者への子育て相談等、多岐にわたる課題と取り組みながら日々保育にあたっている。 ・今年度は指定難病の幼児を受け入れた。保育に限界を感じ、NPO 法人日本 PWS 協会理事の研修を受けた。質疑応答で具体的な対応への糸口を探り来年度の指導に繋げる準備をしている。
組織運営	1 クラス担任や主任を配置するなどし、教職員相互の連携協力の下、園の適正・円滑な運営に努めている。 2 園児等の個人情報の取扱	A	・園の教育方針のもと、教職員が話し合いや相談などを重ね、共通認識を持つとともに意思疎通を十分図りながら保育を行っている。 ・また、保護者などの理解と協力を得て、円滑な運営に努めている。 ・個人情報の取扱いは細心の注意を払い、また、

	いと管理については、適正に行っており、また、保育に関わる公文書についても適切に管理している。 3 教職員の勤務時間やサービスなどについては、就業規則の定めに沿って適正に対処している。		就業規則に関する法令等の遵守については、定期的な話し合いなどを通じ適切な取扱いに努めている。 ・勤務時間についても適切なものとなるよう声掛けをし、過労防止を進めている。
研修（資質向上の取組）	園内外における研修については、教職員が積極的に参加し、能力・資質の向上に努められるよう環境を整えている。	A	・教師一人ひとりが謙虚さを失うことなくモンテッソーリ教育の精神をもとに、あくまでも「助け手・援助者」に徹することが大切であると考えている。その実践のために本年度はモンテッソーリ教育教員養成コースを卒業した2名の教諭とリトミック講師の資格を取得した教諭と教育理念を確認しながら心身ともに健全な発達に繋がるよう計画した。た。 ・また自発的な大学の夏期講座やアシスタント講座に参加してもらえよう日々の教員配置を協力しあった。 これからも夏季休暇や週末等に開催される研修会への参加促進の他、自己研鑽が図られるよう環境作りに努めると共に研修内容の共有に努めて行きたい。
教育目標・学校評価	1 教育目標を設定するとともに、全教職員による自己評価を実施し、次年度の教育活動の参考としている。 2 園に対する保護者からの意見・要望については、適時実施し、可能なものから順次取り入れるなどしている。	A	・全教職員による自己評価とりまとめ、次年度の活動に生かしている。 ・自己評価結果で改善が必要な事柄は次年度の保育活動に生かせるよう、日々の活動でも工夫を重ねつつ改善を図っていく。 ・保護者との信頼関係を大切に、意見やニーズに可能な限り応え、充実した保育と円滑な運営に努めている。保育日数やお弁当の日数を増やしている。
情報提供	1 園児等の個人情報については、適切、かつ慎重に取り扱っている。	A	・個人情報については、秘密厳守を第一として、誤った取扱いがないよう慎重かつ厳格に対応している。

	2 園だよりやホームページ、更には保護者との懇談などの機会を活用し、教育活動などの情報提供に努めている。		・園児の活動状況や行事の内容をプリントでお知らせするように努めている。 ・園での活動写真を個人別に各家庭に提供し好評を得ている。 ・HPのリニューアルと更新は課題の一つである。リニューアル等により、その内容の充実に更に努めていく必要がある。 ・インスタグラムで日々の様子を発信している。
保護者・地域住民との連携	1 P T Aとの懇談やクラスごとの交流などを通じ、保護者と連携を図り、園の適正な運営に努めている。 2 地域の文化や伝統に触れる機会を大切にしている。	B	・園における幼児一人ひとりの様子が保護者に伝わるよう、掲示版で園児の様子が分かる写真などの掲示を進めている。また、各家庭に園児の様子の分かる写真の提供を進め好評を得ている。 ・運動会や降誕祭などの行事についても保護者の理解を得ながら、「こどもが中心」の姿勢を崩さずに和やかな雰囲気の中での参加を呼び掛けている。 ・現在、園周辺の大規模開発が少しずつ進み、地域との関係が広がっている。 ・園外での活動を通じて地域とのふれあいを実現している。 ・中学校区を中心とする幼小中との連絡会にも可能な限り参加している。
子育て支援	園児の心身の健康と発達の状況などについて、保護者と共通理解を得るように努めるとともに家庭や専門機関と連携を図り適切な指導を図っている。 また、保護者の子育てへの不安、育児のニーズを理解しようと努めている。	A	・園児一人ひとりの個性と自立心を大切にして保護者と連携を図り、また、発達支援相談員などとも情報交換や支援を受けながら保育の充実に努めている。 ・子育てに対する不安や質問に応えられるよう専門機関の指導等を受けて保護者に情報提供をしてきている。 ・週1日未就園児クラス、週1日園庭開放を設け、保護者が子育てで役に立つ環境の提供をし、相談にも応じている。 ・保護者向けに薬剤師による薬の話の講演会を実施している。

預かり保育	保護者の実情やニーズに応じ、家庭と連携を図りながら実施している。	A	・保護者一人ひとりの実情や要望に適切に対応し、希望の子どもを始業前と降園後に預かり、効果を上げている。 ・仕事や交通事情などの突然の事情も考慮した預かりを行い、保護者のニーズに応えている。
教育環境整備	園児にとって安全でふさわしい施設・設備を整えるよう環境の整備に努力している。 また、主体的な活動を促すとともに季節や周囲の自然などを生かした環境に配慮している。	A	・園児にとって何よりも安全な教育環境となるよう園舎、園庭管理、遊具の配置や点検などに努め、少しずつ改善をしている。同時に、モンテッソーリ教育が実践できるよう教室内の教材などの整理整頓に努め、園児が活動しやすくなるよう配慮している。 ・広い園舎であるので田中園始め、多くの方の援助を得ながら美化を図っているが、教職員と共に園長自らも塗装や植栽の管理、草取りなどをして維持に努めている。 ・園内自然観察、お煎餅焼き体験（地場産業）、運動会、七夕祭り、お芋掘り、七五三、降誕祭、お料理会、科学博物館への遠足、節分、卒園感謝祈りの会、ひな祭り、お別れ会、卒園の集いとバイオリン演奏など本園の教育理念や季節及び本園が置かれている地理的・社会的状況などに即した行事を盛り込んだ教育活動を実施できた。 ・来年度も感染症予防対策を取りながら活動を充実していきたい。
経営管理	保護者からの納入金や県や市等からの補助金の管理を適切に行い、効果的な運用に心がける。	A	・園児数が少ないため資金的に余裕がある状態ではないので節約に心がけ、法人の助言を得ながら無駄のない予算執行に努めている。

4 総合評価

達成状況	計画に対する評価と課題に対する今後の改善方針など
A	・本園における教職員全員が、本園の教育方針のポイント ～一人ひとりをかけがえない人格として尊重する～ 姿勢に徹し、(親子への) 発達支援教育への取り組みや、予定の行事全てを實現し、園の保育、教育活動は充実したものとなり、保護者からも感謝の声を頂いた。 ・引き続き、教職員の意識や意欲を持続させ、更なる資質の向上を図るため、様々な機会を利用して自己研鑽が図られる環境作りに努めていきたい。 ・更に、コロナウイルス、インフルエンザなどの感染症対策や対応を他の諸機関とも連携しながら迅速に行っていきたいと考えている。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
園児数減少への対応	・近隣の大規模開発で園の周辺に戸建て住宅が建設中であるので、期待をしている。 ・Instagramや掲示、希望者への注文弁当など徐々に改善してきているが、HPが独自に更新できるようにし、発信力を高めたい。 ・一方、朝霞市など遠路から通園頂いているご家庭もあるので、モンテッソーリ教育法の良さと園の活動状況を引き続き広報していくことが重要と考えている。同時に、未就園児クラスの活動の充実とPRも継続していく。
園舎とフェンスの塗装、屋上防水、園庭の維持管理	・園を取り囲むフェンスに錆が目立つようになり、園舎の塗装の塗り替えも必要になってきている時期と考えられる。小規模な修繕はしているが、園児の安全管理上、適切に園舎の建て替えが行われるよう協力していきたい。

その他

- ・保護者の納入金の支払い方法の改善。(園への現金納入から金融機関での納入へ)
- ・HPのリニューアル。
- ・園の持続的な運営をしていくための人材の確保。